

千葉県忠霊塔再整備計画

令和8年3月改訂

千葉県

目次

第1章 事業の目的	3
1. 事業の目的	3
第2章 現在の千葉県忠霊塔の概要	4
1. 現在の忠霊塔の概要	4
第3章 再整備計画地について	6
1. 再整備計画地	6
(1) 位置図	6
(2) アクセス	7
(3) 土地の概要	8
第4章 新たな千葉県忠霊塔についての役割・機能	9
1. 新たな忠霊塔に求められる役割・機能	9
第5章 再整備の基本方針	10
第6章 配置・立面計画	11
(1) 配置計画	11
(2) 立面計画	13
①塔の規模・仕様	13
②塔のイメージ図(コンセプトシート)	14
③墳墓の規模・仕様	15
第7章 事業費及び再整備スケジュール案	16
(1)事業費	16
(2)再整備スケジュール案	16

第1章 事業の目的

1. 事業の目的

千葉県忠霊塔（以下、忠霊塔とする。）は、日清戦争以降の戦没者を追悼するとともに、恒久平和を祈念して昭和29年に完成し、千葉県が管理している。

また、毎年「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の8月15日に、千葉県忠霊塔拝礼（式典）を実施している。

この忠霊塔については、年月が経過し、老朽化が見られたことから、平成31年2月の定例県議会において、地震に備えた維持保全対策を求める要望があり、令和2年度に耐震診断を実施したところ耐震性能が不足していることが判明し、また、コンクリートの強度不足により補強が困難であるとの所見があったため、建て替えによる再整備の必要性が生じた。

忠霊塔が千葉県出身の戦没者慰霊のための塔として、また、恒久平和を祈念するシンボルとしての役割を今後も果たしていくため、忠霊塔を再整備するものである。

第2章 現在の千葉県忠霊塔の概要

1. 現在の忠霊塔の概要



- (1) 所在地：千葉市中央区弁天3丁目（千葉公園隣接地）
- (2) 竣工：昭和29年4月8日
- (3) 敷地面積：1,527㎡
- (4) 高さ：約20m
- (5) 内蔵品：英霊名簿（57,248柱）等遺品（日清戦争以降）
- (6) 建設に係る経緯

昭和19年に千葉市弁天町に忠霊塔の建設が進められたが、未完のまま終戦を迎えた。その後、千葉県遺族会等からの強い陳情があり、千葉県遺家族対策審議会において塔建設の答申がなされ、昭和28年2月定例県議会で塔改修工事の予算案が議決したことにより、改修工事を着工し、昭和29年4月8日、千葉県忠霊塔が完成した。

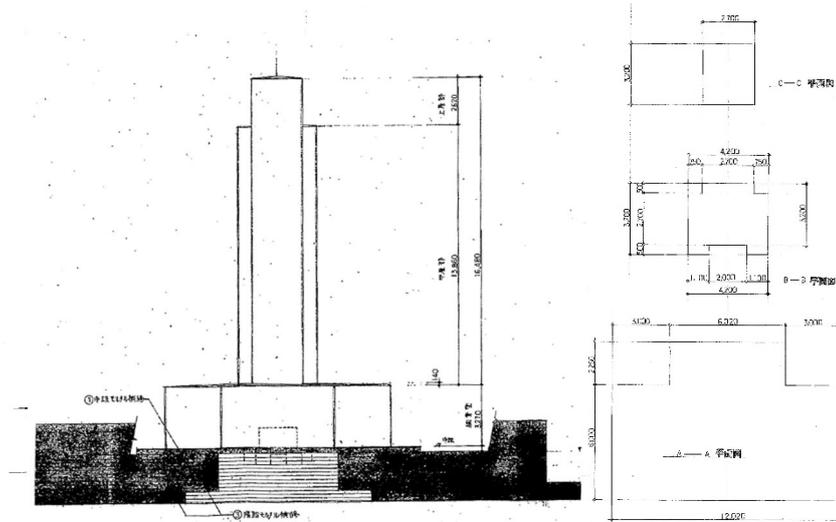
なお、千葉県忠霊塔は、日清・日露の両戦役以降第二次世界大戦までの千葉県出身の戦没者の御霊を慰めるとともに、広く県民に平和愛国の精神を高めていくことを目的として建てられたものである。

(7) 位置図：周辺図を以下に示す

J R 千葉駅北口から徒歩約 10 分。千葉公園のとなりに位置する。



(8) 構造：RC 造御影石貼り



(9) 用途

- ・戦没者慰霊のための塔及び恒久平和祈念のためのシンボル
- ・墳墓（英霊名簿等遺品の埋蔵）
- ・千葉県忠霊塔拝礼（式典）の会場

第3章 再整備計画地について

1. 再整備計画地

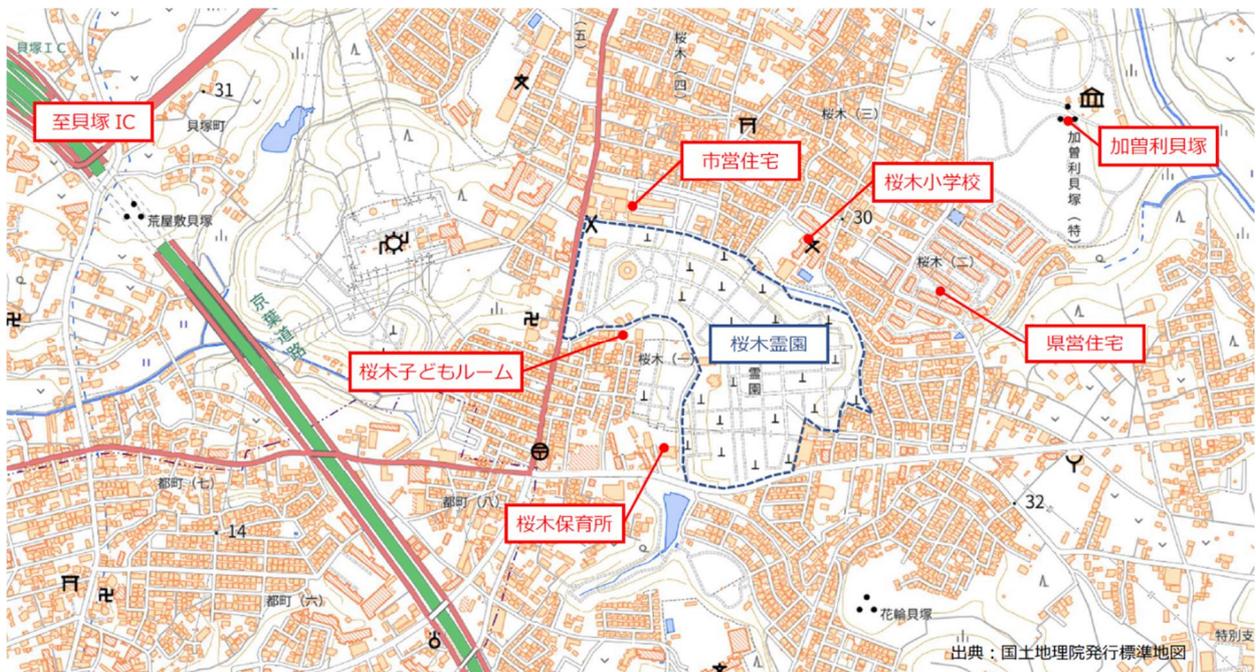
再整備に当たって、忠霊塔敷地内に余裕スペースがなく現地での建て替えが困難であったことから、以下の条件の下、建て替え先を検討したところ、千葉市桜木霊園（以下、「桜木霊園」という）内に建設可能な場所があることを確認したため、再整備の計画地とした。

選定の条件

- 遺品などが埋蔵できる広さが確保できる敷地であること
- 拝礼（式典）が行える広さが確保できる敷地であること
- 忠霊塔は墳墓であることから墓地内（墓埋法の許可済）の敷地であること
- 利便性がよいこと

(1) 位置図

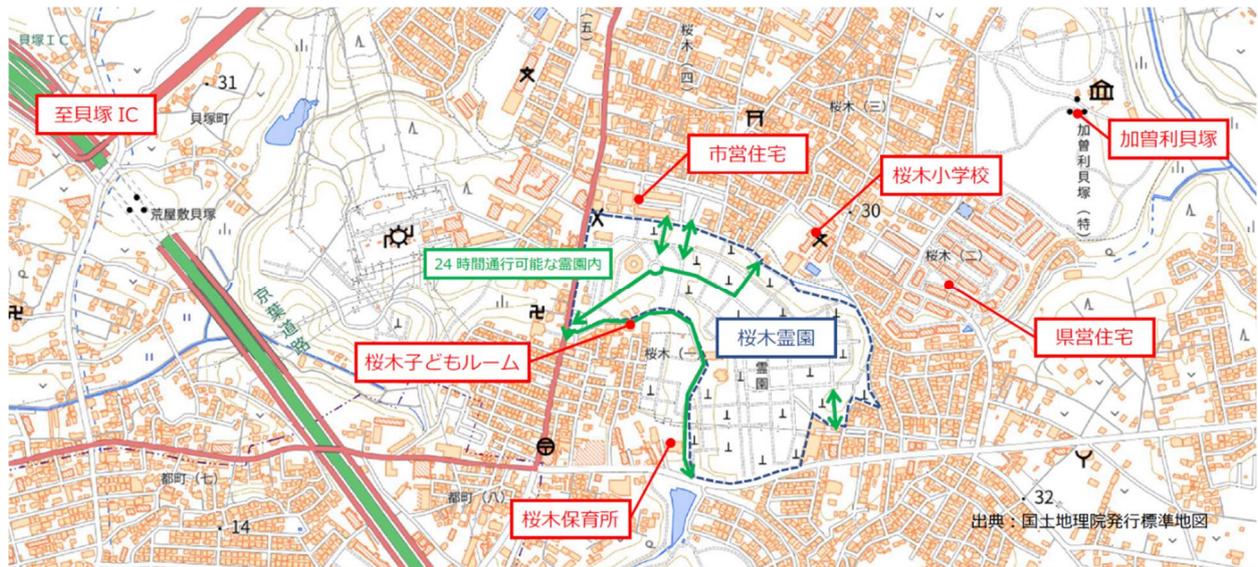
計画地は、京葉道路の貝塚 IC 近傍に位置し、加曾利貝塚といった史跡も近接する住宅地街にある桜木霊園内の一画である。



(2) アクセス

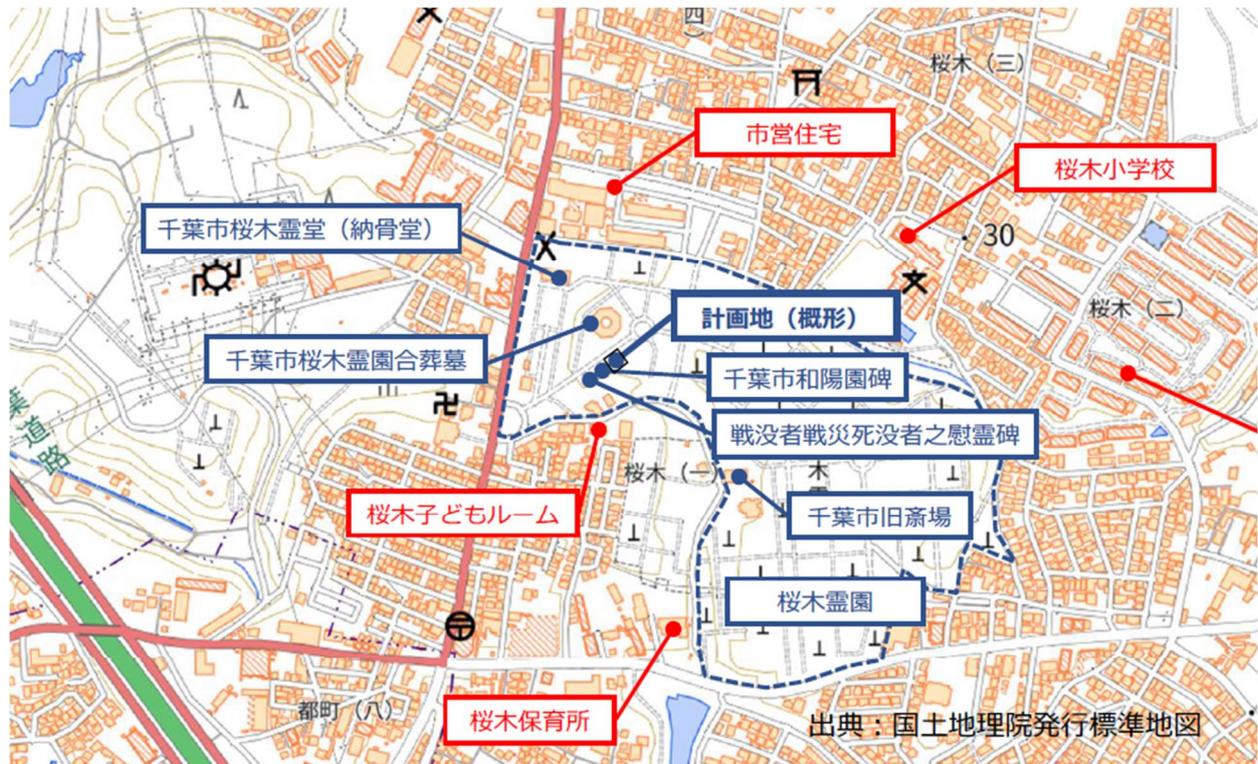
計画地のある桜木霊園は、千葉駅発着の路線バスのバス停「市営霊園」から徒歩 1 分の距離にあり、また、霊園内に駐車場も完備されているため、来園者が訪れやすい場所である。

周囲に住宅地が広がり、小学校や保育所、子どもルームなど教育・保育施設が隣接している。霊園の門扉は 24 時間開放されており、霊園内の通路は地域住民の生活動線の一部として日常的に使用されている。



(3) 土地の概要

霊園内には、一般墓地だけでなく、合葬墓、桜木霊堂(納骨堂)、といった大きな建物もあり、敷地中央の大通り沿いには慰霊碑なども存在している。再整備計画地は大通り沿いの一画である。



第4章 新たな千葉県忠霊塔についての役割・機能

1. 新たな忠霊塔に求められる役割・機能

再整備計画地のある桜木霊園の周囲には小学校、子どもルーム、保育所といった教育・保育施設が隣接し、県営住宅、市営住宅、戸建住宅が立ち並び日常的な住生活を営む地域であり、また、近傍には日本最大級の貝塚として有名な加曽利貝塚を始め、複数の史跡があり歴史が身近に感じられる地域である。

そして、計画地は24時間常時開放された霊園内にあることから、霊園内の通路が地域住民の生活動線となっており、小学校と子どもルームとの動線上にもあるため、新たな忠霊塔は子供を含めた地域住民が日常的に目にすることとなる。

そこで、新たな忠霊塔は、①千葉県出身の戦没者を慰霊する塔であり、②遺品等を埋蔵する墳墓であり、③式典の会場であるという、これまでの役割・機能に、計画地の環境を踏まえ、周囲の環境と調和し地域住民の日常生活の一部となるような施設としての役割・機能を付帯する。

現在の役割・機能

戦没者慰霊のための塔及び恒久平和祈念のためのシンボル
墳墓（英霊名簿等遺品の埋蔵）
千葉県忠霊塔拝礼（式典）の会場

+

新たな役割・機能

周囲の環境と調和し地域住民の日常生活に溶け込む空間

第5章 再整備の基本方針

新たな忠霊塔については、現在の役割・機能を引き継ぎ、また、新たな役割・機能を反映させるため、下記のとおり基本方針を定める。

(1) 戦没者の慰霊塔及び恒久平和祈念のシンボルとしての整備

新たな忠霊塔については、千葉県出身の戦没者慰霊のための塔であり、恒久平和を祈念するシンボルであるという役割・機能を引き継ぐとともに、次の世代に歴史を継承していくため、地域の子供が平和について関心を抱くような意匠とする。

(2) 墳墓（英霊名簿等遺品の埋蔵スペース）としての整備

英霊名簿等遺品を効率的に配置することにより埋蔵スペースを確保し、また、長期間保存ができるよう雨水や湿気対策などに配慮した墳墓とする。

(3) 千葉県忠霊塔拝礼（式典）の会場としての整備

供物台、献花台、テント等の備品が設置できるスペースを確保し、千葉県忠霊塔拝礼の会場として使用できる空間とする。

(4) 周囲の環境と調和し地域住民の日常生活に溶け込む空間としての整備

隣接する霊園内の合葬墓、慰霊碑や緑地と調和し、子どもを始めとする地域の住民が日常的に歴史に触れられる広場とする。

第6章 配置・立面計画

(1) 配置計画

①再整備計画地の選定

既存墓地、近接樹木に影響の少ない位置を選定した。

なお、式典会場としてのスペースや忠霊塔の大きさについて周囲の環境との調和という観点から千葉市と協議し、敷地面積を400㎡程度、塔の高さを8m程度とした。

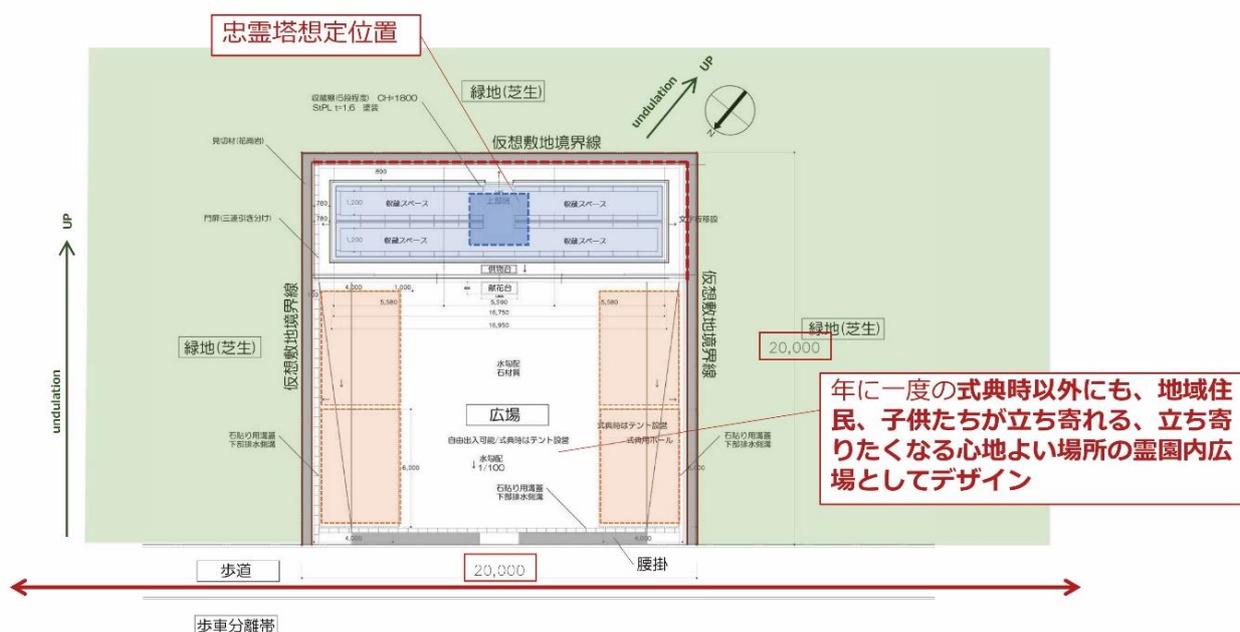
地理院地図
GSI Maps



②塔の配置

選定した敷地内において、前面の歩道から新たな忠霊塔を見た際の圧迫感を軽減するとともに、年に一度の千葉県忠霊塔拝礼（式典）の際に 6m×4mのサイズのテント4張を設置することのできる空間を確保するため、以下の配置計画とする。

なお、塔の前面の空間は、式典時以外は、広場として活用する。



③埋蔵スペース

- ・埋蔵スペースは塔の下部に配置し、棚は5段程度確保し、効率的に低層化できる構成とする
- ・棚の低層部は埋蔵物を十分保管できるスペースとする
- ・雨水の侵入を防ぐよう勾配を確保し、かつ出入口部分に立ち上がりを設ける
- ・現忠霊塔に設置されている石板を埋蔵スペースの側面に移設する

(2) 立面計画

①塔の規模・仕様

- ・塔の最大高さ：8m程度
- ・塔の構造種別：RC造(下部埋蔵スペースと一体化)

②塔のイメージ図(コンセプトシート)

新たな千葉県忠霊塔の意匠

合掌をモチーフ(房総之塔の様な)とした形状であり、自然現象に呼応し立ち現れ方が変化する新たな忠霊塔を計画します

記念碑性として従来より慣れ親しみ平和や安寧等を想起させやすい人の手による合掌の形をモチーフとし直接的なメッセージ性のある塔であることと同時に、歴史を後世に伝えていくため、特に次世代にとって身近に感じるキッカケとなる心地よい場所である事、それは自然現象により見え方の変化がある美しさを感じるものである事を重視した。

それらを日常的に体験する事で、結果的に自分事として捉えていく様な場が望ましいと考えた。

それらの現象、立ち現れ方の変化は戦地にて亡くなられた方々が思い焦がれたこの日本の四季であり、光、風などの豊かな表情を強調するような美しい場であって欲しいと考えた。

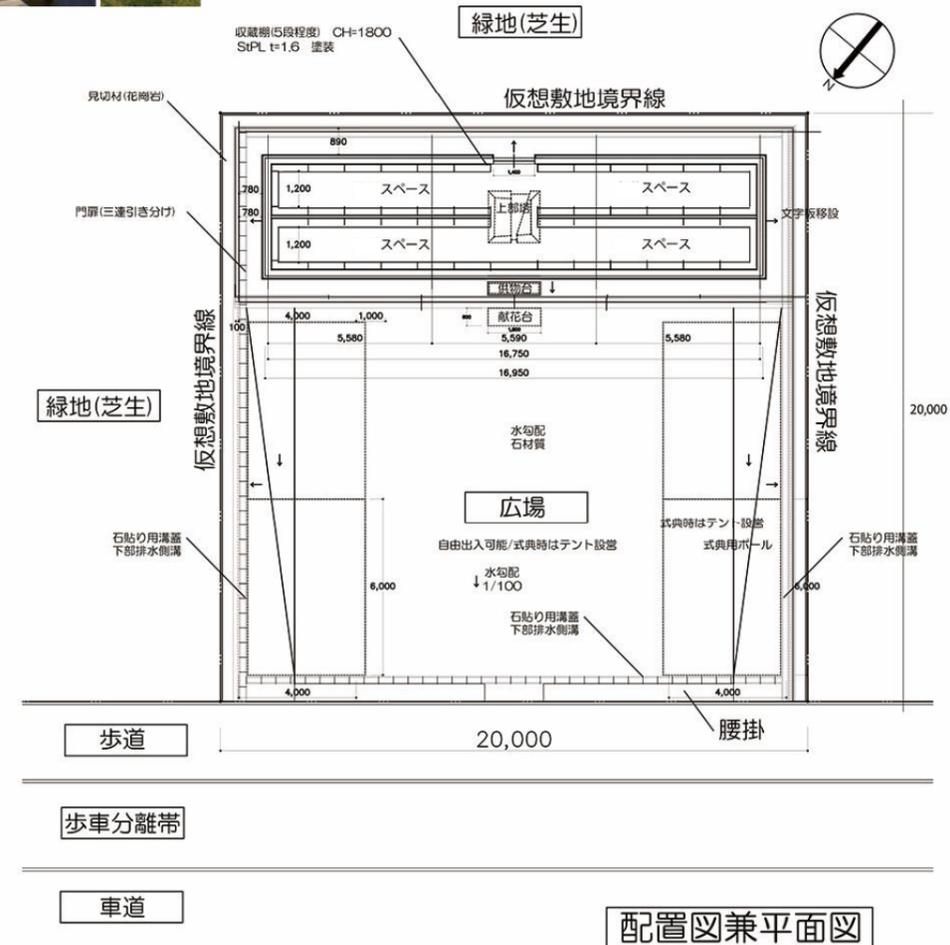
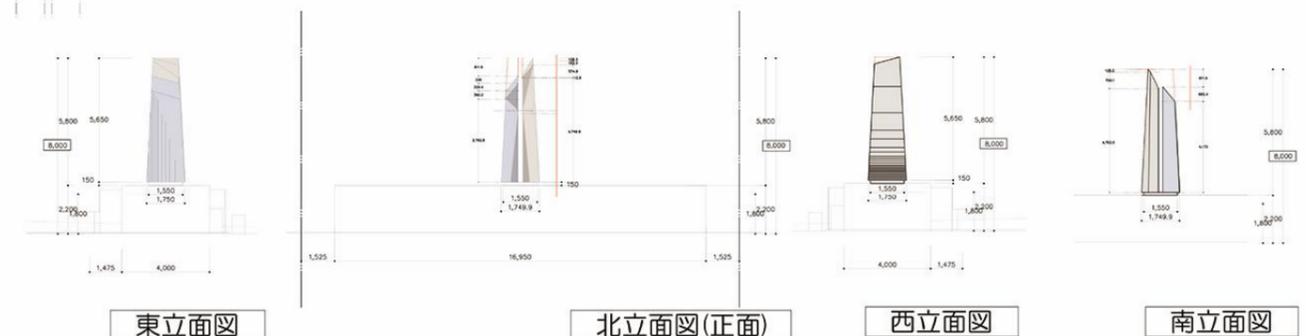
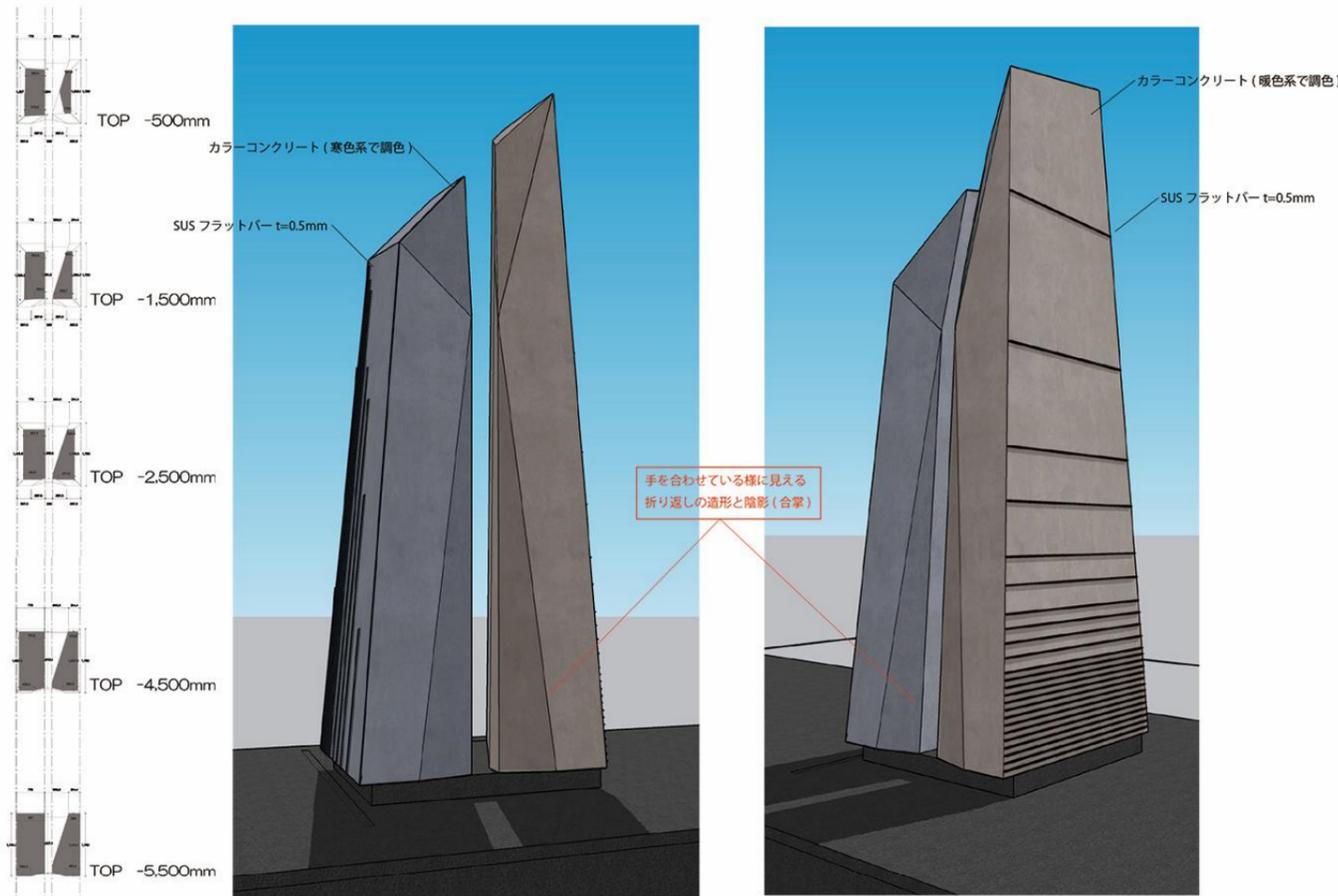


合掌のモチーフ

仏教における合掌の意味を超えて特定の宗教にとらわれず一般的に平和や安寧を想起させる合掌手合わせの形状や所作は直接的に多数の方々に近いイメージを想起させることができる。設計の段階において広く意見を頂く中で、合掌のモチーフにてデザインされたと言われる房総之塔の様な塔を要望される方が多く、その要素を取り入れるものとした。

現象の現れ方

主に視覚に基く見え方、立ち現れ方に焦点を絞り形状の検討を行った。つまりは光、太陽光による光環境の変化がより劇的に変化を強調するような装置となるような塔であることを目指した。具体的には、反射、絞ったスリットから差込む光、凹凸による陰影の表情、雨に濡れたさま、季節により輪郭の強弱や光の角度そういった複合的なものを合掌のモチーフをベースとしながら組み合わせるものとした。



③墳墓の規模・仕様

平面形状：躯体内寸で 16,550mm×3,600mm

天井高さ：1,800mm

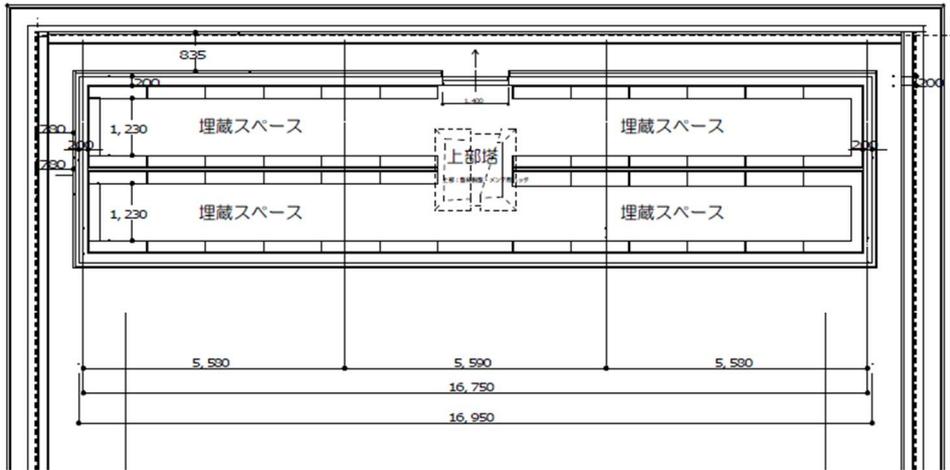
通路幅：1,200mm

棚の寸法：奥行き 250mm×有効高さ 250mm×5 段

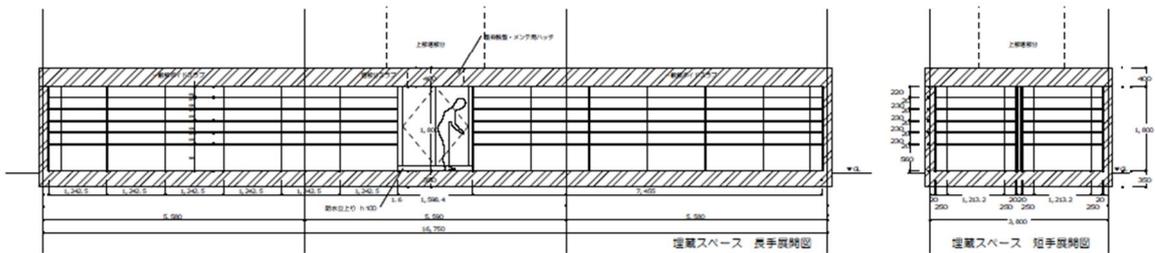
棚の材質：StPLt=1.6 mm 塗装程度

換気設備の有無：無し(電気設備無し)

下記に図を示す



埋蔵スペース平面図



埋蔵スペース断面図

※埋蔵スペースは遺体である事から、僅力天井高さの低いものとして計画する

第7章 事業費及び再整備スケジュール

(1)事業費

(概算費用の内訳)

- ・実施設計委託費： 11,000,000 円(税込)
- ・工 事 費： 210,000,000 円(税込)

(その他費用)

- ・現在の忠霊塔の文字を複写して新忠霊塔に使用する場合に係る費用
- ・英霊名簿等の保管費用（湿気対策）
- ・既存工作物等への影響調査費用（実施する場合）

(2)再整備スケジュール

6年度	実施設計業務委託
8年度	本工事
9年度	供用開始

新忠霊塔において「千葉県忠霊塔拝礼」

完成イメージ

